

豊かな緑で山梨の未来を創る！

ぞうえん山梨

— Landscape Yamanashi —



Special contribution
特別寄稿

造園美で魅せる山梨のサステナブルツーリズム

CONTENTS

- | | | | |
|------------------|-----|------------------|-----|
| ● 会長・理事長あいさつ | P02 | ● 事業委員会の活動 | P10 |
| ● 定時社員総会 | P02 | ● 協会の動き | P11 |
| ● 技術委員会の活動 | P08 | ● 青年部の活動報告 | P11 |
| ● 街路樹剪定士研修会・認定試験 | P08 | ● 全国都市緑化仙台フェア視察記 | P12 |
| ● 街路樹特別委員会の活動 | P09 | ● 表彰 | P13 |
| ● 日造協山梨県支部の活動 | P09 | ● 組合の事業 | P14 |





一般社団法人 山梨県造園建設業協会
山梨県造園建設業協同組合
会長・理事長 依田 忠

平素より(一社)山梨県造園建設業協会及び山梨県造園建設業協同組合の活動に格別なご支援ご協力を賜り、衷心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響により、3年あまりにわたって事業活動も制約を受けて参りましたが、徐々に従来通りの活動を行えるようになりました。

協会活動においては、造園建設業界の健全な発展と若手技術者の造園技術力を強化するための取組など各種の協会活動を行っております。昨年は、県内3校の中学高校で造園建設業を紹介する出前講座を開催しました。また、子供職場体験のイベントに参加し造園業の楽しさを知ってもらいました。今後も「建設産業担い手確保・育成産学官連携会議」の一員として、担い手確保に繋がる活動を進めて参ります。さらに長崎知事が提唱する「緑があふれ潤いと品格がある地域の景観づくりを進める」ことを実現するために、新たに街路樹特別委員会を設置し、道路・公園の景観づくりを始め街路樹診断や老木等の撤去・更新による美しい街路樹の街並み創出に貢献していきたいと考えております。4年ぶりに開催した街路樹剪定士新規研修会・認定試験では県担当者の視察参加のもと実施され、また中北建設事務所にて街路樹の勉強会を行うなど、景観づくりを進める認識が深まるように努めていきます。

一方組合活動においては、指定管理者として県立武田の杜保健休養林の管理運営を行なっています。サービスセンターでは森林を活用し心身の健康の維持・増進を図る五感で感じる森林セラピーツアーの開催や炭を焼く集いなどの自然体験型イベントを実施し、鳥獣センターでは傷病鳥獣の保護や野生鳥獣写真コンクールなど野生鳥獣の生態への理解を深める事業を実施しました。さらに、今年度から甲武信ユネスコエコパークの地形地質や山岳信仰などの自然・文化資産を学ぶ講座を開催し定員を上回る参加者のもと開催できるなど、自然を親しみ共生していく事業展開への期待がますます高まっていくと感じています。また、県の委託事業である「緑の普及啓発事業」では、県内各地で緑の教室を開催し、身近な場所で緑化に関する学習機会を提供し、楽しみながら緑の重要性と緑化の意義を学んでいただきました。

今後も造園建設業が地域に根差した産業としてその社会的使命を果たしていくとともに、災害時には、山梨県との防災協定に基づき地域の守り手として円滑な復旧活動に協力して参ります。

また、建設業の中で唯一生き物を扱う業種として、造園力(ゆるぎない技術力、洗練された文化力、豊かな想像力)の向上を図り、人と自然が共生する緑豊かで持続可能な社会の形成に貢献していく所存であります。

令和5年5月25日造園建設業会館において、第11回定時社員総会が開催されました。来賓として出席した山梨県議会土木森林環境委員会 長沢 健委員長、県土整備部景観まちづくり室 弦間 重彦室長補佐よりご祝辞を頂いた後議事に移り、令和4年度決算について承認され、続いて令和4年度事業報告、令和5年度事業計画及び収支予算について了承されました。なお造園事業功労者表彰では、(株)雲松園・小尾 一良氏、(有)吉井造園・吉井 大樹氏の2氏が表彰されました。

表紙の解説

左上：美術館通り(甲府市)

右上：出前講座(北杜高校)

左下：街路樹剪定士実技試験(甲府市小瀬スポーツ公園)

右下：青少年センターのリニューアルした芝生広場(甲府市)



博士(造園学)
東京農業大学
地域環境科学部地域創成科学科
地域デザイン学研究室教授
まちだ れいこ
町田 怜子

1. はじめに

この度は、「ぞうえん山梨」に寄稿する機会を賜り、大変光栄で心より御礼申し上げます。

私は「地域づくりの担い手育成」を目指し2017年に誕生した東京農業大学「地域創成科学科」という学科で働いています。

地域創成科学科が誕生した経緯には、地域の担い手不足や生物多様性の消失、異常気象に伴う自然災害の頻発化等、複雑化する地域課題にあります。一方で、人と自然が共生する持続可能な社会構築の急務、自然資本を守りながら社会に活かすネイチャーポジティブ(自然再興)経済の潮流が高まりをみせています。地域創成科学科では、農山村が持つ自然環境、美しい風景、食や水資源などの豊かな自然資源が、持続可能な社会の構築に一層重要な役割を果たすと、強く認識しています。

「地域創成科学科」は学科名に「創生(初めて創る)」ではなく「創成(あるものを組み合わせ新しいものを創り上げる)」を使用しています。その理由は、当学科が目指す地域づくりに、「地域が持つ土地、自然、文化などを基盤に、地域にある資源を上手に組み合わせ直し、新しい価値を創出した地域再生」という想いを込めました。

当学科の教育カリキュラムは、地域の資源を幅広く活用できる人材を育成するために、土木学(農業土木・防災)、生態学、環境科学(土と水)、地理情報システム学、造園学、観光学、経済学、社会科学の総合的な学問領域で構成されています。そして、多くの実習を通じて学生と共に現場に足を運び、地域再生を多面的・多角的に考察できる人材の育成を目指しています。

そのため、(一社)山梨県造園建設業協会が実践されている人材育成事業や、造園技術を生かした緑の多面的機能を活かした地域貢献活動に深く感銘を受けております。そして(一社)山梨県造園建設業協会の「豊かな緑で山梨の未来を創る」という理念に、当学科の教育理念と同じ社会的使命を強く共感いたしました。そこで、本稿では私が専門とする風景計画学・観光学から、造園の美しさから創る山梨県の観光づくりについて考えたいと思います。

2. 観光とは 今求められているサステナブルツーリズム

観光の語源は、中国の古典「易経」(「風地観六四」)より「国の光を観る」といわれています。つまり、観光とは日常生活から離れ、地域を訪れその光を観て、癒しや楽しみを感じる行動といえます。観光は人々が観光地を訪れ、食、宿泊、体験等のアクティビティを楽しむので、それに伴う多数の産業が関係します。今では、観光は地域を支える重要な基幹産業の一つといえます。

山梨県には、富士山や八ヶ岳、南アルプスをはじめとする山岳、河口湖や山中湖等の湖畔、ワインや果樹などの食のツーリズム、歴史・文化、そして首都圏からのアクセス性の良さなど豊富な観光資源と観光条件に恵まれた地域です。観光GDPの割合をみると、全国が5%であるのに対して、山梨県は8%と高く、山梨にとって観光は重要な産業の一つと言えます。

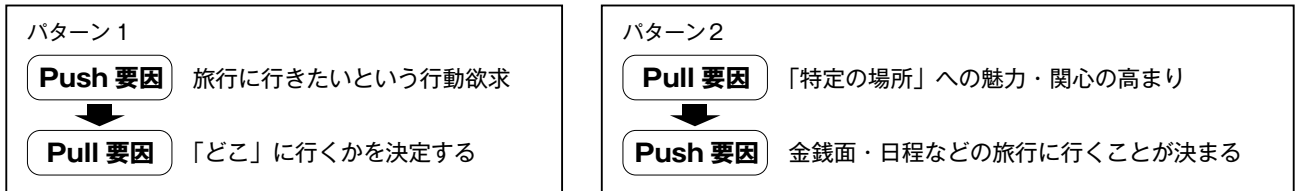
今、観光では気候変動、生物多様性の消失、オーバーツーリズム(過剰利用)の問題から「サステナブルツーリズム」と呼ばれる「地球と地域の持続可能性に配慮する観光」の構築が喫緊の課題となっています。具体的には「環境保全をしながら、観光地の社会や文化に悪影響を及ぼさずに、経済的利益をもたらす観光」の構築です。そのため、サステナブルツーリズムを担う人材として「生態学的プロセスを維持し、生物多様性と自然資源を保全しながら、観光開発にとって重要な要素である観光資源を最適な方法、賢明な利用(Wise Use)を提案できる人材」が求められています。つまり、造園という職能により蓄積されてきた自然を扱う技術、知見が観光業でも強く求められています。

3. 人はなぜ旅をするのか。観光行動の「Push 要因」と「Pull 要因」

ここで、なぜ人々は「観光」をするのか、観光行動の特性をみてみます。

観光行動の欲求の一つに、旅先での新しい経験や珍しい経験、休養やリラクゼーションを求める「Push 要因」があります。つまり「Push 要因」とは「旅行という行動を人に起こさせる個人的要因」です。

二つ目は、美しい自然の風景や魅力的な娯楽施設など「人にその場所に行ってみたい」という欲求を起こさせる「Pull 要因」があります。「Pull 要因」とは「特定の場所に向かわせる要因、誘引要因」です。すなわち、人が惹きつけられる観光地とは「あの場所に行ってみたい」と思わせるこの「Pull 要因」、誘因力が強い観光地といえます。緑による美しい風景、空間づくりも重要な「Pull 要因」となります。



▲ 図-1 観光行動のPush要因とPull要因

4. 「Pull 要因」誘因力が強い観光地とは？美しい観光地の創造

どのようにしたら、「Pull 要因」誘因力が強い、人を惹きつける観光地が生まれるのでしょうか。

人は「そこにいる自分をイメージできると行きたくなる」といわれています。つまり誘致力の高い観光地は、「明確な地域のコンセプト」と、「観光客がその場所で具体的な観光を楽しむイメージ」、「その地域らしさを明確にイメージできる力」があります。

「来てください」「この地域にはよいところがいっぱいあります」「魅力が色々あります」「来ればわかります」というキャンペーンや観光誘致では、実は観光客にとっては、「いっぱいある」「色々ある」といわれても具体的なイメージを持ちにくいのです。

また、観光の誘致力の分析方法として、観光客数など数の「結果」から分析すると、場当たりの対応になりやすくなります。観光地の誘致力の分析は、なぜそこに人が来るのか、その「要因」から分析する方がその観光地の本質的な強みがわかり、長期的・持続的な観光地を形成できます。つまり、誘因力の高い観光地づくりには、その「要因」となる観光客が「そこにいるイメージ」を明確に持てる空間があること、「そこに行ってみたい」と思える空間の質の豊かさ、美しさがあると言えます。観光地づくりは「この場所にいたいと思う」空間の美しさや快適さが重要であり、「美しさの創造」と同義といえます。

鈴木忠義先生（観光学者・東京工業大学名誉教授・東京農業大学名誉教授）がけん引されてきた日本観光協会では、「観光地を美しく保つ」ためには①マイナス要因を除去する②マイナス要因をプラスの方向へ持っていき③さらにプラスの要因を付加することが重要とされています。

- ① **マイナス要因を除去する**
例) 資源の再生・修復、周辺環境の整備
- ② **マイナス要因をプラスの方向へ持って行く**
例) オーバーユーズ：利用ルール、駐車場整備
地域のイメージを逆手にとる、魅せ方・演出の工夫
- ③ **プラスをよりプラスへ**
例) 観光資源の利用と保全管理のための情報提供
ガイドによる案内、パンフレット
空間の創造：展望台の設置

▲ 図-2 美しい風景地を保つために 日本観光協会(1984)

5. 黒川温泉 緑の力を活かした地域再生

この「観光地を美しく保つ」法則を「みどり」で具現化し地域再生が成功した地域があります。

熊本県阿蘇郡南小国町の黒川温泉は、多様な泉質と美しい看板・デザイン、風情を感じる雑木林の景観を温泉宿・特徴的な入湯制度で人気を博しています。2009年版ミシュラン・グリーンガイド・ジャポンでは温泉地としては異例の二つ星で掲載されました。本稿では、黒川温泉のランドスケープづくりに関わってこられて

きたランドスケープデザイナー徳永哲氏からのヒアリング調査をもとに「黒川温泉のみどりによる地域再生の事例」をご紹介します。

黒川温泉は、1964年にやまなみハイウェイが開通し、モーターリゼーションの到来とともに1960年代に第1世代が江戸時代から半農半宿だった黒川温泉に旅館を開業したことから始まりました。黒川温泉の周囲には別府や湯布院といった人気の観光地があり、山間の黒川温泉(写真1)に賑わいはありませんでした。

黒川温泉が、風情ある温泉宿の風景となったきっかけは1986年からで第1世代の子である第2世代(1980年から2010年)による地域再生にあります。

第2世代の旅館オーナーたちは、親世代となる第1世代の中で、唯一洞窟風呂や露天風呂など革新的なおもてなしを実施し、多くの観光客を集めていた旅館新明館の後藤哲也氏に、黒川温泉再生の助言を求めました。

後藤哲也氏は、「ボロは木で隠せ」と植栽で古い旅館を隠す【マイナス要因を除去】する指示をします(写真2、写真3)。続けて、後藤哲也氏の洞窟風呂や露天風呂の造り方を第二世代に伝える際に、その条件として各旅館がオリジナルの洞窟風呂や露天風呂を造り「ユニーク性」「オリジナル性」を出すことを求めました。



▲写真1 山間にある黒川温泉



▲写真2 旅館のアプローチの演出のために施された植栽



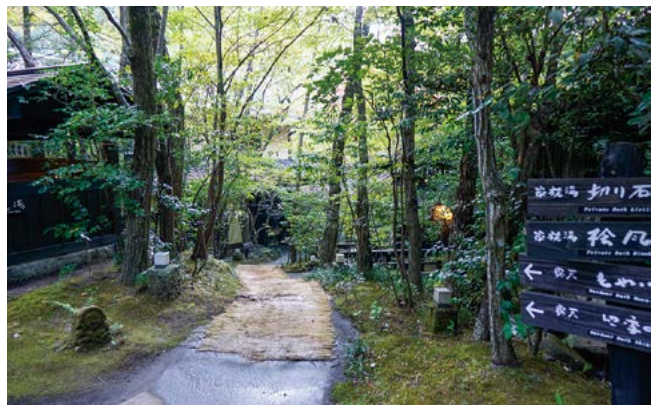
▲写真3 旅館の建物周囲に施された植栽

第2世代の旅館オーナーは、後藤哲也氏の助言をもとに「山里に合う景観整備」をコンセプトに飯田十基の作庭や、熊本県内にある菊池溪等で本物の自然の美しさを学びながら、旅館の周囲にケヤキやコブシ、ヒメシャラ、シャラなどを植樹しました。そして、里山の風景再現による温泉街の再生を図っていきます。

さらに、黒川温泉を「一つの温泉街」と見立てて、各旅館の個人看板を撤去し、旅館看板を統一デザインし、温泉街の色彩の統一と景観デザインを図っていきました(写真4、写真5)。

続いて、【マイナス要因をプラスの方向を持っていく】取組として、黒川温泉の「狭い」「坂が多い」「大型バスが入れない」等の要因を、観光客がゆっくりじっくり温泉街を歩きながら周遊できる仕組みを作り、黒川温泉の魅力の方向にしていきました。具体的には、各旅館の温泉、露天風呂等を周遊できる「入湯手形」を発行し、この手形が黒川温泉の人気の拍車をかけていきます。

このような黒川温泉の「都会的な表現ではなく山間部に合う」色彩や風景整備が外部からの評価を



▲写真4 風景に配慮された看板デザイン



▲写真5 統一感ある景観デザイン

得て「黒川温泉のブランド化」となり、観光客も1990年代に入ると100万人を超える観光地となっていきます。

2000年代に入り、黒川温泉の【プラスをよりプラスにする】景観づくりが展開しました。街づくり環境整備事業(2002～2007)では、旅館オーナーや観光客の本物志向の高まりから、公共トイレや駐車場整備(写真6,7)、坂道の再整備(写真8,9)ガードレール(写真10)、白線(写真11)、街灯まで色彩、素材、施工、デザインにこだわった景観デザインが展開しました。ランドスケープの力を活かし、黒川温泉の魅力はより増していきました。



▲ 写真6・7 街づくり環境整備事業による公共トイレと駐車場(自家用車用)



▲ 写真10 街づくり環境整備事業
景観に配慮したガードレール整備



▲ 写真11 街づくり環境整備事業
石材を利用した白線



▲ 写真8・9
街づくり環境整備事業による坂道のデザイン再生
徳永氏の手作業による砂利の埋め込み

現在、黒川温泉は第3世代となり、「黒川温泉2030年ビジョン」が策定されました。この黒川温泉2030年ビジョンでは「世界を癒す、日本里山の豊かさが循環する温泉地へ」とし持続可能な観光地を目指しています。その例を一つあげると、各旅館で出た生ごみ等のコンポストが農家の肥料となり、そのプロセスで生産された農作物が旅館で提供される料理に使用されるサーキュラーエコノミー(循環経済)が実践・チャレンジされています。

6. 地域デザイン How Might We・・・私達はどのように地域の問題を解決するのか

最後に、地域の皆さんと一緒に地域の宝・観光資源を磨いていく方法を考えます。それは「地域デザイン」という考え方です。造園業界にとって「デザイン」「設計」は馴染みのある言葉だと思います。ご存知の通りデザインには「設計する」という意味に加えて「目的を作り具体的に計画する」という意味もあります。実は地域にも「デザイン」が存在します。

地域の中で資源を発見し、どのような地域になるとよいか、どのような地域にしたいか、なぜそのような地域になるとよいかをみんなで考えることで地域はデザインされていきます。

スタンフォード大学では「デザイン思考」を「問題解決のフレームワークだけでなく、参加、共感するマインドセット」と定義しています。つまり地域デザインとは、①共感 (Empathize)：現場で住民や関係者の聞き取りも重ねて現場の魅力や課題を共感する。②定義 (Define)：解決すべき課題・問題を定める。③アイデア (Ideate)：問題を解決するためのアイデアを出す。④プロトタイプ (Prototype)：アイデアを解決するための案を複数案試行する。⑤計画 (Plan, Challenge)：課題を解決するための目標、筋道を関係する主体と共有し、その目標を達成するために皆でチャレンジすることだと私は考えています。

そしてこの地域デザインを導く思考のプロセスはHMV方式 (How Might We・・・私達はどのように問題を解決するのか) です。その方式は①良いところを伸ばす②悪いところをなくす③ひっくりかえして考えてみる (どうすればマイナスをプラスにできるのか) ④形容詞を変えて考えてみる (例：どのようにしたら「苦しい」を「快適」に変えられるのか等) ⑤どうすれば人が来たくなるのかを考える、となります。さらに、HMV方式を考えながら様々な意見を集約する時は「人を喜ばせる可能性が高いものを選ぶこと」がポイントとなります。

地域デザインの良いところは、自分たちで目標を決めて自分たちの手で未来を創ることができる点です。その中で、特に風景はまちづくりの目標・ビジョンを立場の異なる人とも視覚的に共感しやすく、地域デザインの目標像になります。

1970年代から美しい農村漁村地域を訪ねてその自然や産物、文化等を楽しむ余暇活動「グリーンツーリズム」を展開しているドイツでは、持続可能なツーリズムとして、地域のコンセプト・計画の重要性、美しい景観保全、地域住民の共同を掲げています (表1)。

そのため、造園業界が持つ自然を扱う技術・知見、美しい緑を創造するプロセスから生まれる理念、コンセプトは持続可能なツーリズムに不可欠です。**緑による地域づくりが展開されるほど**、現在と未来の経済、社会、環境への影響に配慮した豊かな地域デザインへと広がります。

▼ 表1 持続可能なツーリズムの定義
(ドイツのグリーンツーリズム 山崎光博 (2005) から著者が改変)

持続不可能なツーリズム	持続可能なツーリズム
①計画なき開発、プロジェクト先行の計画	①まずコンセプト先行の計画・開発
②直接的レベルの計画のみ	②地域の計画との調整
③既存施設外に建設する	③既存施設の中で開発
④景観の素晴らしいところに集中した開発	④美しい景観は保存する
⑤よそ者による開発・雇用	⑤地域の人間による開発、雇用
⑥農業は衰退しツーリズムに流れる	⑥農業の経済性を維持・強化する

参考文献

1. 地域引力を生み出す 観光ブランドの教科書(2019)岩崎邦彦、日本経済新聞出版
2. 山梨県観光入込客統計調査結果(2022)、山梨県
3. 山梨県の観光がもたらす経済波及効果について、山の中銀経営コンサルティング
https://www.yamanashiconsul.co.jp/wp_yc/wp-content/uploads/2018/07/3161d5da5e62d674b109falf1e2dd604.pdf
- 4 観光地づくりの道標 観光地の活性化に向けて(1984)社団法人日本観光協会
5. 実践 スタンフォード式 デザイン思考 世界一クリエイティブな問題解決(できるビジネス)、(2019)ジャスパー・ウ 見崎大悟、株式会社インプレス
6. ドイツのグリーンツーリズム(2005)山崎光博、農林統計協会
- 7 黒川温泉におけるまちのブランド化からみた景観形成過程に関する研究(2020)松野尾 仁美・榎本雅、九州産業大学建築都市工学部研究報告(2)、11-16 頁
8. (2018)：黒川温泉における雑木植栽による修景の展開過程とその技法(2018)寺島 健、山口敬太、川崎雅史、ランドスケープ研究 81(5)、489-494 頁
- 9 黒川温泉の観光まちづくりにおける協働に関する研究(2019)光永和可、田中尚人、土木学会論文集 D3(土木計画学) 75(5)、I_429- I_439 頁
10. サステナブルツーリズム(2018)藤稿亜矢子、晃洋書房
11. 探検！発見！わたしたちの地域デザイン 探し出して発表するまで(2023)町田怜子他、東京農業大学出版会

技術委員会の活動

甲府工業高校・北杜高校出張出前講座

本年度は県立高校2校の計3クラスで出張出前講座を開催しました。造園業の仕事の内容や面白さを伝え、少しでも造園建設業に興味を持ってもらう事に重点をおいて行いました。

2部構成として、1部は3クラスとも同様に(一社)日本造園建設業協会作成の紹介動画で造園業の概要を視聴してもらい、樹木の生理など造園の基本について講義を行い、2部は各高校の要望に応じる内容としました。

◆ 甲府工業高等学校

7月13日、建築科3年生36名を対象に座学を開催しました。生徒が2学期より卒業制作として取り組む住宅の設計、敷地内の造園および外構工事設計を行う上での助言として、住宅の外構工事の基本を説明しました。



▲ 甲府工業高等学校

◆ 北杜高等学校

10月16日、総合学科・環境工学系列(科目:造園植栽)を履修している2年生13名を対象に開催しました。屋外にて樹木の病気や特殊樹のサンプルを説明し、また校庭にある樹勢の弱い樹木について樹木医の視点から解説を行いました。

10月17日、総合学科(科目:産業社会と人間講座)1年生25名を対象に開催しました。刈り込み鋏はさみを使用し校庭内のツツジの剪定の実習を行いました。講習の最後に「昔から人と樹木は関わりあってきました。これからもみどりの応援団になって頂きたい。」と伝えました。



▲ 北杜高等学校

街路樹剪定士研修会・認定試験

春の桜並木を眺め、夏は緑の木陰で休み、秋はイチョウ並木を散歩する。私たちは美しい街並みから季節を感じます。その街並みに欠かせない街路樹の目標像を実現するため、街路樹の樹形づくりや良好な成育に必要な作業を行うのが街路樹剪定士です。

街路樹剪定士の資格取得には日本造園建設業協会各県支部が主催する街路樹剪定士研修会・認定試験で学科・実技の講習を受け、両試験を合格したのち登録認定を受けます。

山梨県開催では、2月2日山梨県造園建設業会館にて街路樹に関する基礎・剪定から病害虫、植栽基盤、安全衛生管理及び樹種や剪定タイプ別のケーススタディ等の学科研修を行い、続いて学科試験を開催しました。翌2月3日には小瀬スポーツ公園にて見本剪定などの実技研修を行ったのち、イチョウ・シラカシの2種類を試験木として実技試験を行いました。寒いなかで朝早くから日の暮れるまで長時間にわたっての研修会・認定試験でしたが、受験者18名のうち13名が合格しました。



▲ 学科研修



▲ 実技試験(イチョウ)



▲ 美しい街路樹の見本剪定



▲ 剪定後写真

昨年に続き2度目となる街路樹勉強会に参加しました。8月28日、県中北建設事務所主催「道路緑化に関する勉強会」が開催され、同事務所職員19名が参加し、街路樹特別委員会から3名が講師として招かれました。道路植栽管理業務委託を受注している協会員22名も道路緑地管理について県と共通認識を持つことを目的として聴講者として参加しました。既存の街路樹はもとより新規計画の街路樹、雑草の処理方法、迷惑施設とならないような計画を持った管理方法などを勉強しました。

今年度より美しい景観の向上にむけた街路樹の維持管理や更新に取り組むべく街路樹特別委員会を設置しました。

街路樹は都市緑化の一環として緑の生活空間を形成し、都市の景観を美しくする役割があります。また緑陰による熱中症対策、CO2の削減、空気浄化、防災上の働きなど様々な効果が期待されており「グリーンインフラ」として位置付けられるようになりました。しかし街路樹の種類や配置によっては歩道の狭さを助長する場合や視界の妨げになる場合もあります。そこで街路樹剪定士資格を持った協会員を活用して適切な計画を検討・提案していくことを目的としています。

一つの活動として、街路樹の適切な管理、また将来的な目標樹形を設定した計画的な管理を行えるように、県中北建設事務所管内の主要路線において見本剪定の実施を行っていきます。本年度は統一感のある街並みの創出を目標に国道358号相生交差点南側にある街路樹のイチヨウを対象として見本剪定を行いました。

また、啓発活動として



▲ 道路緑化に関する勉強会

◆ 甲府河川国道事務所との意見交換会

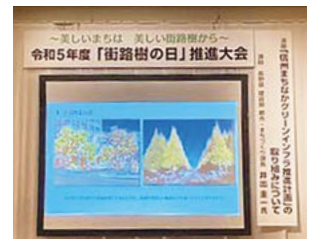
3月10日、国土交通省・甲府河川国道事務所との意見交換会を行いました。甲府河川国道事務所からはWebにて8名、山梨県支部からは造園会館にて役員ほか国道の緑地管理担当者を含め9名が参加しました。現場の声を交えながら率直な意見交換会となりました。



造園会館にてWeb会議 ▲

◆ 長野県支部「街路樹の日推進大会」

10月13日、ホテル国際21(長野市)にて開催された「街路樹の日推進大会」に申松副会長以下3名が参加しました。長野県支部高嶋俊郎事務局長の「街路樹の役割」と題したスライド説明、長野県都市・まちづくり課長井出様の講演会「『信州まちなかグリーンインフラ推進計画』による持続可能で魅力あるまちづくり」を聴講しました。



◆ (一社) 日本造園建設業協会本部との交流会

11月9日、渋谷東急REIホテルにて開催された「本部との交流会」に依田支部長以下3名が参加し、関東甲信総支部管内1都8県、本部の計38名にて協議しました。総支部からの発表では長野県支部が「街路樹の日推進大会」への取り組みを発表し、意見交換会では総支部・各県支部の現状と課題を話し合いました。

子供職業体験～小庭園づくり～

山梨にはどんな職業があるのだろうか？

子供たちが色々な仕事があることを知ることは将来への夢や希望へ繋がります。職業を体験することにより、内容を理解し自分で考える力を育みます。人口減少、労働者不足対策に向けて山梨の企業とその役割を知ってもらうことで、将来山梨での就業を選択肢の中に入れてもらうことを目的としています。

8月5日、アイメッセ山梨にて開催された Kids Job Trial フェアに参加しました。数種類の木と石をどのように配置するか子供たちに簡単なスケッチを書いてもらい、実際に2×2mの空間に樹木の植え付けと石の据え付けを行い、下草を自由に植えてもらいました。4組(1班5人)とも私たちプロが感心するほど素晴らしい庭が仕上がりました。



▲ 完成した小庭園デザインから植付まで自分たちで

4組(1班5人)とも私たちプロが感心するほど素晴らしい庭が仕上がりました。今回の体験を機に、緑に関心がある子供たちが少しでも増えてくれることを願っています。

山梨グリーンインフラの推進×第二土曜日(こどもマルシェ)

～グリーンインフラとは～自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取り組みです。

10月14日、甲府市中心街の緑化推進とグリーンインフラの一般県民への周知を目的として甲府第二土曜日(こどもマルシェ)に出店し、草花の販売と間伐材を使った子供向けバッチづくりのワークショップを行いました。第二土曜日とは、合同会社まちづくり甲府が主催し、毎月第二土曜日に甲府中央商店街にて行うイベントです。10月はかすがモール通りでこどもマルシェも同時に開催しました。



▲ 間伐材を使ったバッチづくり

子供たちがバッチを制作している間に保護者の皆さんにはQRコードによるアンケートを実施しました。「木で物をつくる機会が少ないのでとても貴重な経験でした」という回答のほか「グリーンインフラのことを知っていますか?」という問いに対し、イベントの参加前は18%でしたが、イベント参加後には95%の保護者から「理解が深まった」という回答を頂きました。また、市民への啓発活動が必要だと思っている方が96%となっており、今後もこのような活動が必要であることを改めて感じました。



竹材・木材・石材販売
笠井造園資材 有限会社

〒409-3866
山梨県中巨摩郡昭和町西条2461-5
TEL:055-275-2842 FAX:055-275-5554

一般のお客様にも建機レンタル及び販売を致しております!

<http://www.kouyo.jp/>

街のどこかにKKL

AKT/O グループ

甲陽建機リース株式会社

本社 ● 〒400-0815 山梨県甲府市国玉町797 TEL055-237-7801
リース事業部 ● 〒400-0815 山梨県甲府市国玉町797 TEL055-237-7821
韮崎ハウス工業 ● 〒407-0033 山梨県韮崎市竜岡町下条南側591 TEL0551-21-2302
営業所 ● 甲府・塩山・韮崎・身延・吉田・大月・竜王・甲西センター

◆ 建設業合同企業説明会

7月13日、ベルクラシック甲府にて去年に引き続き3度目のブース設置、協会員4名が参加。建設業に関心を持つ県内の高校生へ向け、造園建設業の果たす役割、仕事内容や魅力を伝え、31社の協会企業を周知する良い機会となりました。



◆ 建設まつり

10月29日、甲府市アイメッセ山梨にて第6回建設まつりに協会員9名が参加。子供体験イベントの関守石風文鎮作りに39名、鉄平石乱張り体験に10名が参加。造園建設業PRビデオの上映も行いました。幅広い年齢層の子供や保護者が関守石の由来や石の乱張り手法に興味を示し、造園業に触れる機会となりました。



◆ 関東甲信造園建設業協議会

10月6日、東京都墨田区・江東区にて東京都造園緑化業協会主催による令和5年度関東甲信造園建設業協議会が開催され、1都8県の造園協会関係者58名が参加しました。本年は、関東大震災が発生して100年であることから、開催テーマは「公園緑地と防災対策」とし、協議会ではメインテーマほか5つの議事を協議しました。視察では、緊急時の災害対策本部が設置される「東京臨海広域防災公園」や関東大震災及び戦災遭難者を供養し、その後の東京の復興を記念した「横網町公園」、ほか旧安田庭園などへ足を運びました。



◆ 甲府市緑化まつり

5月21日、役員9名、部員5名が参加しました。高所作業車の体験コーナーを設け、多くの子どもたちに体験してもらいました。



▲ 緑が丘スポーツ公園にて

◆ 令和5年度青年部通常総会

6月21日、造園建設業会館にて通常総会を開催しました。昨年度の活動を報告し、今後の活動方針について協議しました。また役員改選が行われ新たな体制で新年度をスタートしました。

◆ 山梨県林業まつり ～森林フェスティバル～

10月21日、小瀬スポーツ公園にて役員9名、部員1名が参加しました。軽トラガーデンの展示、緑の相談所の窓口開設や樹木の販売、花の種とPRチラシの配布を行いました。



Shirasaki Corporation
防草シートを使った緑化や頑固な雑草に
お悩みの方は1度ご相談下さい！

自然と人間（みんな）が一緒に幸せになる仕事

株式会社 白崎コーポレーション

〒916-0076
福井県鯖江市石生谷町 11-23
TEL.0778-42-8353 FAX.0778-42-8515



建設機械レンタル・販売・修理
足場施工

信陽機材リース販売株式会社
日本建設機械レンタル協会

〒409-3852
山梨県中巨摩郡昭和町飯喰 1224-1
TEL(055)275-7411 FAX(055)275-7413
URL http://www.shinyo-l.com



LANDSCAPE
YAMANASHI

11

全国都市緑化仙台フェア視察研修会

6月9日～10日宮城県仙台市。コロナ禍の影響で4年ぶりの全体研修会の開催となり、協会員24名が参加しました。1日目は、山梨県の街路樹整備に役立てるため仙台市における街路樹整備の取り組みについて研修会を行い、また全国都市緑化フェア山梨県開催に向けて第40回「全国都市緑化仙台フェア」を視察しました。2日目は、りんのうち ちせんかいゆうしき おたまや ずいほうてん輪王寺の池泉回遊式庭園や伊達家三藩主の霊屋・瑞鳳殿を見学しました。



▲ 講師 案内役の石出様



▲ 定禅寺通り ケヤキ まちなかエリア



▲ 青葉通り



▲ 南町通り シラカシ



▲ イチョウ

日本造園建設業協会宮城県支部事務局長石出慎一郎様より仙台の街路樹について、仙台の歴史から主要街路樹環境の経緯、街路樹維持管理の取り組みについてご講義をいただきました。仙台市では平成11年に「百年の杜づくり行動計画の策定」を決定し市街地の「緑の回廊づくり」を実施し、現在も新・みどりの基本計画に基づき、仙台市内を緑化重点地区としています。座学研修後、緑化フェアまちなかエリア会場でもある定禅寺通りから緑化フェアメイン会場へ、仙台の街なみをご案内いただきながら徒歩にて移動しました。仙台駅に接続している駅前通りから西公園通りを結ぶ全長約1.4kmの定禅寺通りの4列のケヤキ並木は圧巻で、ケヤキのトンネルも美しく、道路中央の緑地帯では週末に様々なイベントが開かれます。訪れた時には「SENDAI COFFEE FES」が開かれ、緑がきらきらと輝き、緑地帯を地元の方や観光客などたくさんの人々が歩いていました。西公園南側地区・広瀬川地区会場では、フォレストアドベンチャーなどの自然と親しみ緑と遊ぶエリアを散策し、大橋を渡ってメイン会場の青葉山公園追廻地区会場を訪れました。竹飾りや球体花壇で飾られたウエルカムガーデンに迎えられ、新たに開館したせんたいりょくさいかん仙臺緑彩館、大花壇、庭園出展作品などを視察しました。

緑のリサイクル事業
株式会社
山梨環境サービス
公益社団法人 日本下水道管路管理業協会会員

〒405-0069 山梨県笛吹市一宮町東新居 1065-1
TEL/0553-47-3305 FAX/0553-47-3306
E-mail yamakan@yks-eco.co.jp
URL https://yks-eco.co.jp/



日立建機日本特約店(販売・サービス・製造)
国際貢献事業



山梨県南アルプス市上今諏訪564番地の1
TEL 055-282-3211 FAX 055-282-3269
http://www.nikkenmfg.com/

今回の研修会では、緑化フェア各会場視察と仙台市内の街なみ視察を合わせて、仙台市内を2^キ以上1時間ほどかけて徒歩で移動しましたが、街なかの南町通りのシラカシ、^{ばんすい}晩翠通りのケヤキ、広瀬通りのイチヨウとどれも剪定が素晴らしくいつまでも眺めていられました。一般的に街路樹の見学を目的とする人は少ないかもしれませんが、多くの人がその街路樹並木と調和された仙台市街地を散策し、緑を眺めながら心癒されるのではないのでしょうか。また、緑地帯では青葉通りのテラス席、定禅寺通りのナイトガーデンなど、緑が作る空間に人々が集まり、お茶を飲み、会話を交わす。季節を楽しむ快適な環境の創出。これが仙台市の緑を生かしての都市づくりではないかと感じました。



▲ 輪王寺



▲ 仙臺緑彩館



▲ 大花壇「はなばた飾り」



▲ 庭園出展コンテスト金賞受賞作品

LANDSCAPE YAMANASHI 12 表彰



(株) 明桃園
代表取締役
角野 勝氏

(一社) 日本造園建設業協会 会長賞(業績表彰)

当協会会員である角野 勝氏は、令和5年6月23日に日本造園建設業協会から、氏の長年の業績が高く評価され、会長賞を受賞しました。



(株) 富士グリーンテック
工事部環境保全課課長
中山 昇午氏

(一社) 日本造園建設業協会 会長賞(勤続精励表彰)

当協会会員企業の環境保全課課長である中山 昇午氏は、令和5年6月23日に日本造園建設業協会から、氏の長年の業績が高く評価され、会長賞を受賞しました。



(有) 山宮造園
代表取締役
山宮 一哲氏

山梨県環境緑化功労賞

当協会会員である山宮 一哲氏は令和5年10月21日に小瀬スポーツ公園で開催された林業まつり記念式典において、環境緑化推進の功績が高く評価され、長崎幸太郎知事から表彰されました。



(株) 芝保
代表取締役
藤原 辰男氏

建設雇用改善優良事業所 山梨県知事表彰

(株) 芝保(代表取締役 藤原 辰男氏)は、令和5年11月22日にアピオ甲府で開催された令和5年度「建設雇用改善推進・建設業労働災害防止表彰式」において、優良事業所として長崎幸太郎知事から表彰されました。

STIHL®

緑化園芸機材・林業 / 農業機械・鳥獣害対策機器・刃物
森林アウトドア用品・薪ストーブ・薪ボイラー・除雪機
保冷庫・木材加工機材・保安用品 (スパイク付ブーツ等)
高圧洗浄機・法定器具・キノコ菌類・食品乾燥機

地球への愛、人への優しさ。
当社は優れた品質で社会に貢献します。

山梨スチール株式会社

〒400-0047 山梨県甲府市徳行4丁目13-5 <http://www.yamanashi-stihl.co.jp>
TEL : 055-226-3656 info@yamanashi-stihl.co.jp

総合造園緑化資材、石材砂利、越後の刃物、卸販売

有限会社造園資材センター

〒400-0054 甲府市西下条町1346-1
TEL:055-220-2553 FAX:055-220-2554

山梨県造園建設業協同組合では、現在 31 社が加入し、造園に関する様々な業務を行なっております。現在は、山梨県から指定管理者として「武田の杜保健休養林」の管理運営、緑の普及啓発事業として「緑の相談所」を受託し事業を展開しております。

武田の杜保健休養林事業

平成 26 年度より、武田の杜保健休養林の管理運営を行っており、四季を通じて自然に親しむ様々な事業を展開し、県内外から多くの皆様にご利用いただいております。

令和 4 年からは、武田の杜サービスセンター内に甲武信ユネスコエコパークインフォメーションセンターが設置されるなど、武田の杜の取り組みが高く評価されるとともに、自然に親しみ共生していく事業展開への期待がますます高まっております。

本年の事業では、武田の杜新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインに基づき、新型コロナウイルスやインフルエンザの感染防止に注意を払い計画していた全事業を実施いたしました。

当組合としては、今後とも感染症対策に努めながら、更なる実施事業の充実、適正な管理運営を行い、多くの皆様に愛され安心してご利用いただける施設にまいります。



◆ 武田の杜森林セラピー

武田の杜では、平成 25 年に森林セラピー基地に認定された良好な自然環境のもと、武田の杜森林セラピーガイドの指導による質の高い保養プログラムを提供し、年間で約 300 人の方が体験しており、本年度は、森林セラピーを 20 回実施しました。

更に通常の森林セラピーに加え、甲府市や県農林大学校、甲武信ユネスコエコパーク推進協議会など 4 団体から依頼され、計 5 回開催し延べ 75 人に体験していただくなど、好評のもと実施することができました。

また、山梨交通株式会社のツアー「五感で感じる森林セラピーツアー」の中でも実施し、参加者は森林セラピーの後に昇仙峡に移動、マイスターガイドの案内による溪谷の散策をし、甲府市内のワイナリーでブドウ畑の見学やワインとオードブルを楽しむなど、森林セラピーで癒され、美しい自然と美味しい夕食を堪能するツアーを満喫していました。

◆ 野生鳥獣写真コンクール (鳥獣センター)

野生鳥獣の保護思想の普及啓発を図るために開催され、平成 9 年度から始まり、令和 4 年度で 26 回目を迎えました。

令和 4 年度は、県内はもとより全国各地から 34 名、82 点と多くの応募があり、その中から、最優秀知事賞を始め各賞が選出されました。

また、応募作品を展示する「野生鳥獣写真コンクール展示会」を、令和 5 年 4 月から約 2 か月間開催し、多くの来場者がありました。

本年度も、令和 6 年 2 月末日締め切りで、現在募集中です。



▲ 写真 最優秀知事賞
「弱肉強食(チョウゲンボウを食べるハヤブサ)」
平井 信子

緑の相談所

旧山梨県緑化センターで行われてきた緑化相談や緑に関する研修会等ソフト事業につきまして、県から「緑の普及啓発事業」の業務委託を受け、平成 26 年度から「緑の相談所」という新たな組織を立ち上げ、県内各地で研修会の開催など県民を対象に緑の普及啓発事業を行っております。

◆緑の教室

年間34回県内各地の会場において「庭木の年間管理作業」「ガーデニングの基礎」「富士山の植物生態」「萌木の村ナチュラルガーデンウォーク」「甲武信ユネスコエコパークの魅力と取り組み」等、緑に関する知識や技術の普及を目的とした講座を開催しています。



◆緑サポーター養成研修

緑に関心の高い県民を対象に、地域の緑化の推進及び樹木の診断を行なう者を養成するための講座を開催しています。7日間の講座中、6日以上の参加で県から修了証書が授与され、修了者は(一財)日本緑化センターへ「緑サポーター」として登録することができます。本年も12名が登録しました。



◆巨樹・名木学習講座

小型バスで県内の巨樹・名木を巡り、現地においてその価値、保全、活用等について樹木医から学ぶ講座を年間8回開催しています。参加申込につきましては、毎回30分程度で定員に達してしまう人気の講座です。



◆特別講座

ローズファーマーの後藤みどり氏講演会を11月17日、194名の参加者を迎え、東京エレクトロン韮崎文化ホールで開催しました。演題を「バラに癒される日々。バラと共に豊かな暮らしを」として、山梨県内の主なバラ園の紹介や、バラの最新情報や育て方などについて語っていただきました。



◆緑化相談事業他

緑の相談所樹木医、及び組合所属樹木医等8名が病虫害・剪定・緑化等、緑に関する相談に対応しています。また、小学校等教育機関や各種団体からの要請により、緑に関する研修会を開催しています。

令和5年度第37回通常総会

令和5年5月25日、山梨県造園建設業会館にて第37回通常総会を開催しました。令和4年度事業報告・収支決算や令和5年度事業計画・収支予算が承認され、任期満了に伴う役員改選では、依田忠理事長をはじめ新役員が選任されました。



— 武田流門松を展示しました —

令和5年正月、山梨県庁本館玄関前並びに山梨県議会議事堂前に武田流門松を展示しました。皆さまのご多幸と健康を祈願しての展示に、多くの皆さまからご好評をいただきました。

◀ 県庁本館玄関前



— 武田流門松講習会を開催しました —

令和5年11月29日、県立武田の杜保健休養林サービスセンターにて、組合員を対象に武田流門松講習会を開催しました。武田信玄が考案したと言われる武田流門松…その伝統的技法を後世に受け継いでいけたらと願っています。

— 表彰等 —

山梨県中小企業団体中央会

令和5年6月7日、アピオ甲府にて開催された山梨県中小企業団体中央会第68回通常総会において、令和5年度組織功労者他の表彰式が行なわれました。山梨県中小企業団体中央会会長より、組織功労者として(株)帯金造園・帯金岩夫氏、青年部功労者として(有)清水造園・清水嘉文氏が表彰されました。

感謝状

令和5年5月13日、甲府市総合市民会館にて開催された令和5年度県民緑化祭りにおいて、公益財団法人山梨県緑化推進機構会長より「緑の募金」の趣旨に賛同し、森林の整備や緑化の推進に貢献された旨の感謝状が贈呈されました。

会 社 名	代 表 者 名	住 所	電話番号/FAX	E-mail / URL
(株)アセラ技建	久保田 茂樹	甲府市蓬沢町1171	055-233-4617 055-233-4633	giken@acera-jp.com
(株)石和植木	齊藤 正隆	笛吹市石和町川中島378	055-263-2070 055-262-4889	isawa@mbd.nifty.com
(株)石原グリーン建設	石原 政人	甲府市高室町269	055-241-2001 055-241-0822	office@green21.co.jp https://www.green21.co.jp
(株)雲松園	大塚 広夫	北杜市小淵沢町3630	0551-36-2432 0551-36-4128	info@unshouen.co.jp http://www.unshouen.co.jp
(有)萩野造園	萩野 陽司	甲府市伊勢四丁目1-12	055-235-4045 055-231-2020	ogino@peach.ocn.ne.jp https://www.oginozouen.com
(株)帯金造園	帯金 岩夫	甲府市池田二丁目11-12	055-251-4128 055-251-4194	office@obikane.co.jp https://www.obikane.co.jp
(株)河口湖庭園	梶原 陽一	南都留郡富士河口湖町船津4940-1	0555-72-0635 0555-72-5435	yozan@kawaguchiko.ne.jp
(有)窪田造園	窪田 司	甲斐市中下条1673	055-277-2111 055-277-8881	kubotazouen@za.wakwak.com
甲南緑化(株)	岩田 めぐみ	甲府市高室町721	055-241-6136 055-241-6135	kounan@maple.ocn.ne.jp
河野造園土木(株)	河野 嘉孝	甲府市下飯田二丁目5-27	055-222-4396 055-222-0555	info@kzd.co.jp https://kzd.co.jp
(株)三枝造園	三枝 正雄	富士吉田市松山1267-6	0555-22-1174 0555-22-2219	yamaus-zouen@tbz.t-com.ne.jp
(有)坂本造園	坂本 篤彦	韮崎市若宮二丁目9-39	0551-22-0301 0551-22-0322	sakamotozouen@bg.wakwak.com https://sakamoto-zouen.com
三協造園(株)	八木 幸彦	西八代郡市川三郷町印沢18-3	055-272-6000 055-272-7777	sankyouzouen@beetle.ocn.ne.jp
(有)サンリツ造園土木	富岡 信也	甲府市善光寺町3135	055-268-3110 055-268-3118	sanritsu-2006@topaz.plala.or.jp
(有)敷島緑化土木	石水 秀樹	甲斐市島上条1664	055-277-2530 055-277-8311	sryokkas@cronos.ocn.ne.jp https://shikishimaryokka.jp
(株)芝保	藤原 辰男	甲府市貢川本町18-20	055-237-7000 055-224-5555	shib0377@peach.ocn.ne.jp https://shibaho.jp
(有)清水造園	清水 文一	甲府市里吉一丁目7-21	055-233-9748 055-233-9758	shimizu.z@sea.plala.or.jp
(有)須田造園	須田 良英	笛吹市八代町米倉729	055-265-2452 055-265-3691	suda@arion.ocn.ne.jp http://www.land-s.co.jp
中央造園土木(株)	今村 尚人	甲府市徳行一丁目9-27	055-226-4525 055-226-4573	info@chuouzouen.co.jp http://chuouzouen.co.jp
辻緑化土木(株)	辻 宏幸	甲府市朝氣三丁目3-16	055-233-9545 055-233-9542	info@tsuji28.net http://www.tsuji28.net
(株)津々美造園	堤 明伸	甲府市愛宕町146	055-253-2188 055-253-7835	tsutsumi@mx10.ttcn.ne.jp http://www.tsu2mi.com
(株)仲村造園	仲村 清輝	北杜市明野町小笠原3838	0551-25-2348 0551-25-2439	naka-la1@aurora.ocn.ne.jp
野尻造園建設(有)	野尻 広光	韮崎市穂坂町宮久保5122-2	0551-22-0615 0551-22-2531	h-nojiri@amber.plala.or.jp
富士観光開発(株)	志村 和也	南都留郡鳴沢村字富士山8545-2	0555-86-3311 0555-86-2440	kensetsu@fujikanko.co.jp http://www.fuji-net.co.jp/
富士急建設(株)	飯島 慶一	富士吉田市新西原五丁目2-1	0555-22-7151 0555-22-7153	fken@fujikyukensetsu.co.jp http://www.fujikyukensetsu.co.jp
(株)富士グリーンテック	阿部 敏明	甲府市富竹三丁目1-3	055-236-1600 055-224-5520	honsya-soumu@fujigreentech.jp http://www.fujigreentech.jp/
(有)美園造園土木	武藤 洋	甲斐市玉川1447-4	055-276-9241 055-279-8671	misono610@s2.dion.ne.jp http://www.yamanashi-machitsukurijp/mizonozouen/
(株)明桃園	角野 勝	南アルプス市桃園974-4		

《発行》(一社)山梨県造園建設業協会 〒400-0115 山梨県甲斐市篠原2456-4 TEL.055-279-7328 FAX.055-234-5160 《発行日》令和6年1月1日

(一社)山梨県造園建設業協会

E-mail: info@zo-en.or.jp
U R L: https://zo-en.or.jp



山梨県造園建設業協同組合

E-mail: info@y-zouen.jp
U R L: https://y-zouen.jp



Facebookで「いいね！」してね
山梨県造園協会 検索

